

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300634		
法人名	株式会社悠隆		
事業所名	グループホーム「ととろの杜」	ユニット名	B棟
所在地	宮崎県延岡市土々呂町5丁目2565-1		
自己評価作成日	平成30年8月10日	評価結果市町村受理日	平成30年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyousoCd=4570300634-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成30年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地の中にありつつも、自動車学校の様子や日豊本線、国道10号線の様子を眼下に眺めることができ散歩をする人が多く行きかう等、生活をしているという実感が持てます。地域住民の方々とは、ホームの行事や地域のお祭り、避難訓練や研修の講師を担って頂くなど関わる機会があります。また、地元の商店から食材を購入し、メニューの中に取り入れており、普段から手作りで美味しい食事を味わって頂いています。幼稚園との交流会を通じて子どもと触れ合う機会もあり毎日の生活の中に楽しみもあります。
高台にあることから安全面についても優れており、飲料水や食べ物等も備蓄し、災害時に備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が生き生きと働けるように資格取得の手助けや、日頃から意見や提案が気兼ねなく言える雰囲気づくりに留意し、働きやすい職場環境作りをしている。運営推進会議においてもメンバーの方々に身体拘束廃止委員を兼ねる協力を依頼し、会議での意見や提案を運営に反映させサービス向上に生かしている。又、今後の課題としてホーム事業と共に周辺地域と協力し活性化できるよう更なるステップに向けた目標を掲げ取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	簡潔で分かりやすい、馴染みやすい理念を職員室に掲示するとともにユニット毎に達成できるよう目標を立てている。また、理念及び目標を立て直そうと計画している。		”あなたを支えます”の理念をベースにA・B棟独自の目標を作っている。職員は、利用者を自分の両親や身内そして自分自身だったらという思いで支援しており、ケアの中に理念を生かすよう実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園交流会を継続して行っている。また、夕涼み会を開催する際には近隣住民の方々にチラシを配布し招待している。推進会議メンバーを通じて地域の情報も頂くことができている。		食材の調達には地域の商店を利用し、地域の祭りでは神輿を園庭に招致するなど地域の一員として交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や利用申し込みに来られた方々にホームを案内する際に認知症についての理解ができるよう説明をしている。また、積極的に実習も受け入れており、双方が発展できるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や行事・研修の報告を行っているが、メンバーから活発に意見や助言等をいただくことができている。それらについては、朝礼や会議・議事録を通じてサービス向上に向け取り組んでいる。		会議は地域の市議・学識者・民生委員等多彩なメンバーの参加を得ている。様々な意見や提案、情報を受け運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議へ参加をして頂いている。ホームの状況を報告するとともに他事業所の良い点等を紹介して頂いている。また、認定調査等の必要に応じて協力している。		介護保険制度改正に伴い、身体拘束等についての相談助言をもらうなど、日常的に相談しやすい良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、外部研修を通じて全職員が学べるよう機会を設けている。身体拘束の種類について知ることその意味を理解しケアに臨んでいる。		身体拘束の弊害については勉強会で学び理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。今年、拘束廃止委員会を発足し、今後3か月を目安に開催する予定となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主催による虐待防止研修の予定がある。行き過ぎた介護、食事の強要等も虐待になる恐れがあることを周知し、入浴時に全身状態を観察し瘡ができていないか、適切な身体介護ができていないかを確認し合っている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はいないものの、これまでに利用していた方がいらしたこともあり、職員室に関連の書籍を置いておりいつでも閲覧できるようにしている。また、研修担当より研修の題材として企画をしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や料金についての説明を行った上で契約を交わしている。また、利用時にどんな些細なことであっても疑問点や不安感を覚えた際には、伝えて欲しい旨を話している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族懇談会の際に出席して頂き、意見を表出できる機会を設けている。また、面会の際に何でも話しやすい関係作りを大切にしている。	家族懇親会や面会時等では、意見を言い易い雰囲気づくりに留意している。遠慮される心情を察し、クレームは大事な助言という姿勢でのぞんでいる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回程度、ユニット会議をそれぞれの棟毎に開催し、業務についての検討や意見を発言できるようにしている。	全体会議やユニット会議の場を含め、日頃から意見や提案は気兼ねなく言い合える場になっている。ユニット会議ノートが用意されており、気づいた時には記入できるようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手が不足しており介護職員一人当たりの負担が多く掛かっているため精神・身体面での疲労感が残る状態である。それでも利用者様や職員同士でコミュニケーションを図り人と接する温かさ・楽しさを感じながら働いている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外、施設内研修と学ぶ機会が多い。また、回覧ファイルに研修案内を入れ、自主的に受けられるよう支援している。資格取得に関わる際にも勤務の調整や勉強会を開く等の対応をしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外での行事や研修へ参加をし、グループワーク等を通じて交流する機会がある。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉や表情から読み取れるよう関わりを持ち、その方を知るという視点から支援を行いながら、安心して過ごせるよう環境づくりを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が本音を言える関係づくりを目指してリラックスした雰囲気を作り、ご本人の普段の様子を伝え、エピソードを共有するように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの時点で一番困っていること、ご本人・ご家族の考え等をお聞きしつつ、合わせてホームについての見学・説明を行っている。同法人内の施設についても簡単に話し、合った所でのサービスが受けられるよう支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する・されるという関係ではなく同じ空間・同じ時間で一緒に生活をしているという意識をもち、必要な時に手を貸したり・借りたりの関係を大切に支え合いながら、過ごしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時を利用し、近況報告をするとともにできるだけ喜んで頂けるようなエピソードを話しながら一緒に過ごせるように努めている。ご家族の意向も汲み取りながら、病院受診や行事の際には協力を頂いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援として、縁のある場所(故郷、昔よく行っていた商店等)へのドライブを毎年企画している。また、知人・友人の面会も随時受け入れている。	本人家族から得意とする分野や趣味等の情報を聞き、支援に生かしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や関係性を鑑みて、席を調整している。また、一緒に唄を歌ったりチリ箱を作ったり等の作業も通じて関係性を仲良く保てるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1Fに有料老人ホームがあり、そちらに転居をする方も多いため、職員と現入居者とで面会に行く機会を持つことができている。また、退去後に連絡を頂くこともあり、近況を伺いつつ必要時には相談に乗っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、お一人お一人の言葉・態度を観察し大切にしながら、潜在する思い・意向を汲み取ることができるよう努めている。また、家族からの情報や生活歴からヒントを得て、ケアに反映・コミュニケーションの材料としている。		日々かわりの中で利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。音楽を好きな利用者にはCDを流すと笑顔になる事や、お腹をポンポンと叩くと排せつのサインである事など、表情や仕草で本人の思いを汲み取る支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話を聞いていくのと同時にご本人とも昔の話を伺う中で生活歴を把握していき日常の支援に繋げている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録を活用したりその時その時のご利用者の状態を観察したりすることで得られた情報を話し合うことで把握できるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎にモニタリングを行い、ユニットの全職員でプランに沿って意見や現在の状態、結果について話し合うよう努めている。家族からは具体的な要望が出にくい傾向にある為、こちらから計画を提案し判断して頂いている。		個別の介護記録や職員の意見を参考にし、現状に即した介護計画を作成している。介護計画書の情報は全職員が共有し利用者本位の支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、気づき・問題点をできるだけ分かりやすく記録に残せるよう努めている。また、些細なことであっても普段と違う行動が見られた際には、詳細まで記録するよう職員全体で情報を共有できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や外来受診が必要になった際に家政婦の要請や福祉タクシーの等を利用できるよう支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の商店から食材を購入するとともにホームにて行事を行う際には、近隣住民の方に声をかけている。また、地域の祭り際には神輿に来てもらいご利用者様たちにお祓いをしてもらっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に現在のかかりつけ医を受診し続けるか、協力医に変更するかどうかを契約を交わす前にお考えをお聞きするようにしている。外来受診が必要な場合は原則家族対応としているが、やむを得ない事情がある場合は職員が同行している。	本人の、今までのかかりつけ医へ家族付き添いの下受診している。状態に変化がある時は、介護サマリー記録等を持参してもらい、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週1回来訪した際に、既往歴や内服薬、主な観察点を把握してもらった上で日々の心身の状態等を伝え、必要に応じて指示を受けつつ、適切な治療を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合には、保険者によって定められたシートを活用しつつ情報提供するとともに、入院中に、面会に行く際にご本人・ご家族や病院スタッフの方からお話を伺うことでスムーズな退院必要に応じて転居の支援などを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に契約を交わす際に重度化・終末期への対応について指針を手渡した上で説明をし、あくまでその時点で積極的な治療を望むのか、そのまま看取るのか等のお考えを伺っている。	指針をもとに急変時等の意向確認書や看取り介護の同意書で確認し、本人、家族の思いを大切に支援する方針となっている。職員はターミナルケア研修に参加し、勉強会を行い、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各種緊急時に備えたマニュアルを事務所に設置し閲覧できるようにしている。また、事故発生時には医療機関及び保険者に速やかに連絡を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中及び夜間想定での避難訓練を行っている。地元消防団にも協力を頂きながら一緒に誘導訓練等を行っている。消火器を用いた訓練の際には、ご利用者様も行って頂いている。	運営推進会議において、防災について度々話し合いが行われている。消防団の方が協力的で様々なアドバイスがある。隣接する山については、行政・山の所有者に対し今後の対応について相談している。	隣接する山からの危険は、行政からハザードマップの危険箇所から外れているとの報告があっているが、今後も想定外の有事を視野に入れ安全対策を講じることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドや自主性・性格に配慮し一人一人にあった声掛けを工夫している。基本的に丁寧語で話すようにしているが、コミュニケーションが図りづらい場合もある為、必要な範囲で方言をもちいて会話をすることがある。		自分の両親や身内そして自分自身に置き換え、言葉かけや対応をしている。特に排せつ誘導時は誇りやプライドを損ねるような対応や言葉かけがないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちや考えがあつての行動になるよう選択肢を提供し支援している。言語的コミュニケーションが上手く交わせない方でも表情や感情に注意し思いを汲み取れるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者が好きな場所で自分のペースで過ごせるよう配慮している。一人で過ごす時間も持てるよう自室の環境を整えている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選べない方には、職員が用意し意見を聞き、鏡の前で身だしなみを整えてもらっている。自分らしい装いで過ごしてもらえるよう支援に努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビやチランを見たときに好きな物を把握し、どの料理法が好きか伺いながら季節を感じられる食事を作っている。内容は家庭の味を意識しながら状態に配慮した形態(刻み・ミキサー)で提供している。		野菜の皮むき、味見などできる範囲で参加を促している。料理も握りずし、魚の日干しなどとリクエストがある。職員はさりげない介助を行いながら利用者と同じ食事で食卓を囲み、楽しい食事となるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の普段の摂取量を把握し、足りない時には補食(甘味、ご家族持ち込みの嗜好品等)を摂取して頂いている。苦痛のないよう摂取できるよう、時間や飲み物の種類を変える等の工夫をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きができる方でも、磨き残しがある為に毎晩義歯を預かった際に再度、職員が磨くことで清潔な状態を保てるようにしている。自分でできない方には嗽を勧め、気持ちよく過ごせるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗により気落ちしてしまう為、できるだけ減らせるよう排泄チェック表をつけ、確認しながらトイレへ案内している。また、言動・行動・表情からタイミングを察知するように努めており、歩行が不安定な方にはポータブルトイレを使用している。	排泄つチェック表を活用し、排泄つパターンを把握してトイレへ誘導している。夜間においても声掛けをしてトイレへ誘導し自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に1回程度は乳製品を取り入れたり、麦ごはんを炊いたりとしている。野菜等の食物繊維が多く含まれている食材をメニューの中に取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせて入浴を行いたいが、職員側の都合により曜日や時間帯を決めた流れになっている。拒否する方や体調が優れない方については、時間や日を改めたりシャワー浴・清拭を行い対応している。	入浴時間が決められているが希望があれば清拭・足浴等に対応している。入浴までに至っていないが出来る限り入浴が楽しいものとなるように支援している。	一人でも希望に沿う入浴が可能になるよう、週5日入浴日の活用と職員ローテーションの再確認や工夫を期待したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人一人違うので、習慣に合わせて休んで頂いている。眠れない方がいる時には、フロアにてお茶等を飲みながらテレビ視聴や傾聴対応している。居室の室温や寝具の状態を確認し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報にていつでも処方された薬の内容を確認している。服薬の際、ペアのスタッフで声を出し確認しながら誤薬を防いでいる。また、薬が変更になった際には、ノートを活用し申し送りを行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物量み、調理、テーブル拭きなど個々の能力に合わせて行って頂いている。普段は、歌や談笑、ゲームをし過ごしている。また、行事を計画し行きたい場所・やりたい事等の想いを尋ねている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員では無いがお墓参りや外食等ご家族から連れて行きたいとの希望が聞かれており、協力を得ながら実現できている。身体機能の低下により外出が難しい方もいるがホーム内を手引きにより歩いて頂き筋力が低下しないよう支援している。	玄関先の花を見に行ったり天候の良い日にはホームの庭や周辺の散歩を支援している。又、季節折々のドライブも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かる際又は使用する際には出納帳に記載し家族の方に確認して頂いている。欲しいもの(外出時に軽食や自販機で飲料水等)を購入する際に充てている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もいるが、最近では使用している様子が見られない。使用方法の説明をする等の支援が必要である。また、手紙は希望者に書いて頂き、遠方の家族にも書くことができています。年末に年賀状書きを計画している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂が自然と利用者が集まる場所になっており、料理の音や匂い・テレビを観ることができるなど寛げる空間となっている。壁には季節に応じた装飾をし、それぞれの部屋にはプレートを使用しているが、それでも迷ってしまう方には随時声掛けを行っている。		共用空間は掃除が行き届いており、清潔に保たれている。随所にソファや椅子が置かれくつろげる様に工夫がしてある。しかし、表皮の傷みや肘杵が露出しているものもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やテレビ前、窓側と数か所にソファや椅子を設置し、共用スペースでありながらも一人で過ごす空間も作ることでのんびり休めるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や衣類、写真等の身の回りにあったものを持ち込んで頂き、入居当初の不安を軽減できるようにしている。少しずつ、好みの物を増やしていくことで本人本位の居心地の良い空間が作れるよう支援している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定で杖やシルバーカーを使用する方が数名いらっしゃる事から、食堂及び廊下はテーブル等の間隔を広く取り、移動が安全にできるように努めている。			